

ツバキを題材に据え，地域おこしと連携した栽培学習

<実践の概要>

北陸は，日本に自生する椿の代表的な品種のヤブツバキとユキツバキが混在し，交雑種のユキバタツバキが育つ稀有な地域である。本実践では，椿で地域おこしを画策する富山県南砺市井口地域にある中学校での，技術・家庭科と総合的な学習の時間を関連付けて行う「椿学習」について，報告する。生徒は，小学生入学時から椿栽培に親しみ，次第に植物の性質や環境とのかかわりを学び，郷土愛を深め，やがては郷土を担う人材へと成長していくことをねらいとしている。

1. はじめに ー地域とツバキの関係ー

井口地域は，富山県の南西部に位置し，赤祖父山の裾野に300世帯が暮らす。赤祖父山の中腹には，ヤブツバキとユキツバキが混在する一帯が広がり，交雑種のユキバタツバキが自生する。昭和の終わりに全国的に展開された「ふるさと創生」の中で，椿による村おこし（当時は東砺波郡井口村）が提案され，「日本一の椿村」を目指すことになった。その一環として，訪問した大島町（東京都）で圧倒的な量と規模を誇る椿栽培を見た実行委員会の方々は，方針を転換し，「日本一椿を愛する人が住む村」を目指し，村民全員が椿を愛し，育てる活動を推進した。この活動に沿って，小・中学校でも，総合的な学習の時間の導入と相まって「椿学習」がスタートし，義務教育9か年を通して，椿に親しむカリキュラムが組み込まれてきた。

2005年には，椿の研究と保存を目的とした「いのち椿館」が開館し，園芸品種の紹介や世界中から収集した貴重な品種で原種椿園を設置するなどして，椿の研究を行っている。椿館には，小・中学校で実践する椿栽培の指導や，学習の助言をいただいている。

2. 中学校における椿学習

(1) 取り木体験

小学校低学年で，椿を実生栽培（種から発芽して成長させる）を経験した生徒たちは，入学時に各自が育てた鉢をもって，隣接する中学校に入学してくる。

中学校では，体験を深めて，品種保存に利用される「取り木」（枝の途中の維管束を切除し，発根させてクローンを育成する）による栽培を体験する。

5月下旬に学校から約2km離れたところにある「椿の園」で取り木した椿の苗木は，半年後に親木から切り離して移植され，1年半のかけて十分に成長させた後，親木と同じ美しい花を咲かせるようになる。



図1 取り木作業（上段）と発根した苗の移植（下段）

(2) 挿し木による苗育成 ー椿野植太郎ー

「椿野植太郎」(つばきのうえたろう)は、本校会ブランドの椿苗である。毎年3月下旬の椿の開花に合わせて開催される「南砺いのくち椿まつり」で即売され、イベントの盛り上げに一役買っている。



図2 椿まつり会場での苗の即売

椿の挿し木は、夏休みの登校日に行われ、生徒たちは、1学期中に挿し床となるペットボトル容器の収集に奔走する。ペットボトルを利用した廃物利用の方法も、椿館の指導員の方から教えていただいた方法である。ペットボトルを半分に切り分けて、水揚げ布を入れて上部に挿し床用の鹿沼土の細粒を入れる。それをまとめて樹脂製の衣装ケースの中で管理する方法である。この方法を用いると、容器の中で水が循環し、発根までほとんど水やりをしないでよくなる。



図3 枝から挿し穂を切り出す

例年500本近く挿し木を施すが、発根率は40~50%程度とかなり低い。このことから生徒は、命を繋ぐことの困難さに気づき、発根して命が次の世代に繋がったときの喜びを知る。また、大切に育てようという心も育つものと思われる。

(3) 簡易保温容器の工夫 ー椿野根っこ生え太郎ー

技術・家庭科の「生物育成の技術」の学習で工夫したのが、簡易保温容器「椿野根っこ生え太郎」(つばきのねっこはえたろう)である。



図4 保温容器の工夫

これは、もう一回り大きなペットボトルをかぶせて、保温を行い秋以降にも挿し木ができるよう工夫した。大きなケースに何十本単位で入れた場合、苗の様子を観察するのがたいへんだったが、この方法で、苗の様子を毎日確認することができるようになった。10月上旬に挿し木したものが、11月下旬に発根し始めている。

3. おわりに ー栽培学習の位置付けー

栽培学習は、長期間に及んだり、天候の影響を受けたりして、なかなか思うようにならない。しかし、思うようにならないところに喜びがあることを感じる何よりの題材である。また、本校のように地域との連携を図り、より多くの人に生徒と接していただけることも、生徒にとっては貴重な体験である。

参考文献・参考Webページなど

本稿の椿学習の様子が掲載されている Web ページ <http://www.tym.ed.jp/sc312>

椿の情報が調べられる「カイニョと椿の森公園 いのくち椿館」 <http://tsubakikan.city.nanto.toyama.jp/>